

平成31年度学校自己評価システムシート (県立所沢西高等学校)

目指す学校像	心身を鍛練し、自主自立の精神を養い、調和のとれた心豊かな人間を育成する。 —理想の普通科高等学校を目指し、生徒・保護者の期待に応える—
--------	--

重点目標	1 どのような生徒を育成するかを明確にし、それを基に教育活動を見直す。 2 一人一人の学力の向上を図り、進路実現を支える教育活動を充実させる。 3 安心して安全な教育環境を整え、生徒会活動・特別活動・部活動等への自律的な取組や地域との連携により、次世代を担う人材を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 1 6 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	・本校では昨年度、所西生の将来像委員会を立ち上げ、生徒にどのような力を育成していくか検討している。「所西生の将来像」を「目指す学校像」へ位置付け、3年間でどのような力を育成するか明確にし、具体的な方策を考える必要がある。	本校の教育活動の見直し	①所西生を具体的に育成するイメージを共有する。 ②育成に必要なカリキュラム、特別活動等を検討する。 ③次期学習指導要領に基づく教育課程表を完成させる。	①次期学習指導要領を踏まえた、所西生の育成過程が各教科等から具体的に示されているか。 ②生徒等の意見も踏まえ、組織的に検討できたか。 ③「所西生の将来像」に合った教育課程となっているか。	概ね達成できた ①②将来像委員会が所西生育成方針を各教科に確認し、それを踏まえて目指す学校像と教育方針を見直すことができた。 ③教育課程表の完成に向けて作業を進めている。	B 教育課程表の完成後、新たな目指す学校像、教育方針に沿った授業方法、評価方法を具体的に検討する必要がある。
2	・生徒アンケートでは授業理解度が増加しているが、家庭学習をほとんどしない生徒の割合が減少していない。生徒の学習意欲を喚起するための方策が必要である。 ・職業観の育成や進路を選択していく過程を考えたキャリア教育を通して、生徒が早期から自己探求をし、進路実現につなげていく取組を一層充実させる必要がある。	学習習慣の確立と主体的に学習に取り組む態度の育成 早期からの進路意識の育成と個に応じた指導の充実	①生徒の学ぶ意欲が高まるように授業改善を進める。 ②系統的な進路指導により生徒に3年間の見通しを持たせ、学習意欲が高まるようにする。 ③自主学習につながる課題提示をする。 ①総合的な探究の時間、総合的な学習の時間におけるキャリアデザインを通して、進路を見通せるようにする。 ②ガイダンス機能等を一層充実させ、早期に進路への意識付けをする。	①ICTの活用や公開授業等の授業改善に係る取組が行われたか。 ②生徒アンケートで、見通しを持った進路意識が高まっているか。 ③自主学習に取り組む環境を整えられたか。 ①生徒アンケートで、進路への見通しややりたい自分のイメージが定着しているか。 ②ガイダンスの中身を変更し、時期を早められたか。 ③外部模試等の活用を進めることができたか。	概ね達成できた ①未来を拓く「学び」プロジェクト研究公開授業を実施。 ②進学補講を受けたい1,2年生は66%から70%に増加。進路ガイダンスが進路意識を高めるのに役立っていると回答した生徒は82%から84%に増加。 ③自習室の利用は定着している。 概ね達成できた ①アンケートの結果、1,2年生で進路の方向性を決めている生徒の割合は75.7%であった。 ②「学び未来PASS」を導入し、生徒の特性による進路指導に生かした。 ③新大学入試に向けた英語の外部検定試験の情報を提供できた。	B 公開授業週間を設定するなど、授業改善につなげる取組を検討し継続する。生徒の家庭学習時間を延ばすための取組が必要である。1,2年生対象の進学補講を検討する必要がある。 B 新しい目指す学校像、教育方針に沿った生徒のキャリア形成の仕組みを整える必要がある。また、生徒の進路希望に応じた指導体制を一層充実させる。
3	・一人ひとりの多様性を認め合い、安心して学校生活を送れるように、相談体制の充実と安全教育の継続的な取組が必要である。 ・生徒は部活動や特別活動、生徒会活動等に積極的に取り組んでいる。より多くの生徒がこれらの活動に主体的に取り組み、地域ともさらに連携を深めて、調和のとれた教育を推進することが必要である。	生徒の社会形成能力の育成と安全教育の充実 生徒の自主的で積極的な取組の推進と地域との連携	①IT機器の適切な使用法等を指導し、いじめを許さない人権意識を育てる。 ②生徒が個々に抱える問題を職員全体で共有し、適切に対処できる相談体制を推進する。 ①学校行事や部活動に主体的に取り組めるよう指導を充実する。 ②地域交流やさまざまなボランティア活動等を通じ、多様な人と関わることで生徒の社会性を育む。	①人権意識を啓発するために、関係機関と連携して学年集会等で指導できたか。 ②関係機関の協力を得ながら、安心して相談できる体制を整えられたか。 ①生徒アンケートで、積極的に取り組んでいる割合が高まっているか。 ②地域交流やボランティア活動に参加する生徒が増えているか。 ③より多くの生徒がボランティアを体験する工夫ができたか。	概ね達成できた ①年2回いじめアンケートを実施した。また、人権感覚育成プログラムを学年集会で指導した。 ②生徒の特性に基づき作成した対応事例を用いて、特別支援研修会を実施した。 ほぼ達成できた ①②市内小学校学習ボランティアに生徒のべ37名が参加、小学校一日交流会を実施、生徒65名参加。被災地ボランティア活動を11月に実施、生徒42名参加。吹奏楽部地域交流会を4回実施。生徒会による台風被災支援募金活動実施。	B いじめアンケートの他、学年や教科担当等の情報共有で、いじめ等を未然に防ぐ体制はできているが、SNS等のトラブルが依然として存在している。また、生徒が個々に抱える問題も複雑化している傾向がある。 A 振り返りを通して、生徒は学校行事へより主体的に参加できるようになった。地域交流やボランティア活動も定着し、自主的な募金活動も行うことができていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年1月29日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・理想の普通科高校の具体的な中身が見えることが大切だと感じる。 ・どのような人間を育てるのかを学校目標に明示することが大切である。 ・生徒がある程度は好きな科目を選択できるような教育課程も必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・機器の活用については、今後も積極的に進めた方がよい。 ・普段の授業の中で、学ぶ必要や学ぶ楽しさがかかるような工夫が欲しい。 ・授業改善は授業者によっても差がある。教科の枠を超えた研修等も必要である。 ・部活動だけでなく進学補講を受けるといふ選択ができる雰囲気づくりも大切である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供がないと具体的な進路希望も見えてこないで、早期からの充実は今後も必要である。 ・進路意識を高めるには、生徒自身が実際に行動していくことが大切である。 ・講演会は有効に活用できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの利用については、専門家による講演会等を企画し、生徒だけでなく保護者への啓発も充実させるのが良いと思われる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・三者協議会では、生徒に発言する機会を多く確保できると良いのではないか。 ・所沢西高校の特色は、ボランティア以外にも作っていく必要がある。 ・ボランティアの実際は、一部の生徒の自主性に拠るところがまだ大きい。 	